

としょかん つうしん

2月号

2月号は「外国のむかしばなし」です。みなさんに馴染みのふかいグリム童話やロシア民話などを集めてみました。古くから伝わるおはなしの世界を楽しんでみてはいかがでしょうか。



「おおきなかぶ」

年少向け

A. トルストイ再話 内田莉莎子訳 佐藤忠良画
福音館書店

おじいさんが植えたかぶは、とても大きなかぶになりました。おじいさん一人では抜けず、おばあさん呼び、まご、いぬ、ねこ…と、かぶを引く手はどんどん増え、みんなで「うんとこしょ どっこいしょ」。くり返しのリズムが楽しいユーモアあふれるロシア民話。一緒かけ声にあわせて読みたくなる絵本です。



「てぶくろ」

年中向け

エウゲーニー・M・ラチョフエ うちだりさこやく
福音館書店

森でおじいさんが落とした手袋。その中にねずみが住みつき、やがて、次々とほかの動物たちもやってきます。その数がふえるにつれて手袋の中はぱんぱんで、屋根がついたり呼び鈴がついたりと絵だけ見ても楽しめます。「いれて」と「どうぞ」のくり返しと、個性ある動物たちが魅力的なウクライナ民話の絵本です。



「ブレーメンのおんがくたい」

年長向け

グリム原作 ハンス・フィッシャーエ せたていじやく
福音館書店

年老いて働けなくなったろば、いぬ、ねこ、おんどりが、音楽隊に入るためブレーメンのまちをめざします。旅の途中で見つけた家は、どろぼうたちの家でした。みんなで力を合わせてどろぼうに立ち向かうシーンは、迫力満点。ハンス・フィッシャーの描く伸びやかでカラフルな色彩の絵が印象的なグリムの昔話です。